

第5回 倶知安町景観計画・緑の基本計画検討会議 議事概要

◎日 時	令和3年2月25日（木） 午後2時00分～午後4時00分
◎場 所	倶知安町公民館 中ホール
◎出席者	策定委員会：矢吹座長、大萱委員、高岸委員、佐藤委員、カー委員、坂井委員 ※ 欠席（山田委員、辻井委員、古谷委員、大久保委員、峠ヶ委員、笠間委員） 傍聴者：4名 事務局：まちづくり新幹線課 福坂課長、遠藤景観室長、星加景観係長、西口まちづくり係長 コンサルタント会社：㈱KITABA 百瀬、松田



1. 開会

2. あいさつ（座長）

（矢吹座長）

- ・ 今回で令和2年度の検討会議が終わる。今日は各部会に出てきた話をまとめてもらったので、そのことについても振り返りつつ、前回の資料をブラッシュアップしているので、みなさんの感想や意見をいただきたい。

3. 議事

（1）倶知安町の景観特性・基本理念、基本方針（案）等について

資料1の内容について事務局から説明

（矢吹座長）

- ・ 景観は普段見慣れたものだが、色々な付加価値がついて、私たちの資産、宝ものになっている。それ

をどうやって未来につないでいくか、ということもみなさんから意見をいただきたい。

- ・ 子供たちに提供できるような教材ができたように思っている。将来的に活用していけるものになったのではないかな。令和4年に完成した後も教材として活用できるものとなると思う。

(佐藤委員)

- ・ 全体的には良いと思う。今までの意見を取り入れて良いものになってきていると思う。
- ・ 資料2のP7に歴史文化の資源を見て、何年か前に倶知安青年会議所が旭ヶ丘の散策路の三十三観音を調べていたことを思い出した。それを掲載しても良いのではないかな。
- ・ P6のヒラフ地区の網掛けが高齢者には見づらい。別途見やすくした方が親切である。

(矢吹座長)

- ・ 三十三観音は入っていても良い。散策路を歩くと良い雰囲気である。

(高岸委員)

- ・ 資料2のP7において、歌碑と詩碑が追加されていたので良かった。記念碑も思ったよりも多くあって驚いた。
- ・ 銅像はレルヒ中佐と旭ヶ丘にあるものだけか。
- ・ 夏場旭ヶ丘を眺めて見えるジャンプ台も町外から来た人には注目される。そのあたりも触れられるとよい。
- ・ 羊蹄山の恵みという視点で水がとても美味しいということも資源の一つとして触れて欲しい。

(矢吹座長)

- ・ ジャンプ台は負の遺産になっているようにも思えるが、町外から来た人に巨大な滑り台か？と聞かれたことがあり、話題に上がることもある。
- ・ 残すならばきちんと活用するようにどうするかと検討していくべきだ。生かすためにはどうするのか、これからみなさんと考える課題の一つである。
- ・ 銅像については個人の所有物もあれば、ジャンプ台の下にあるレリーフなどもある。あまりその詳細は町民にも知られていないが、伝えていくと捉え方が変わると思う。

(坂井委員)

- ・ 資料はよくまとまっており、概ね良いと思う。
- ・ 基本理念の「人が」という部分が気になる。あえて「人」と書く必要はあるのか。

(矢吹座長)

- ・ 議論の中で自然を規制などで守っていこうという話となったが、守っていくというときに「誰が」という視点にはなると思う。

(星加)

- ・ 前回の検討会議やヒアリングで意見があった。主体性を持って「私たち」が景観づくりをしていこうという意識を持っていきたいという趣旨であった。意識づけのために入れたフレーズである。

(坂井委員)

- ・ 誰がという意味を付けるなら、「私たち」や「我々が」などもっと具体的に書くべきだと思う。「人」というのは抽象的で捉えにくい。

(カー委員)

- ・ 素晴らしい資料となっている。将来に向けての大きな意味があるものとなった。
- ・ スキージャンプ台については自分も気になる。撤去するのではなく、しっかりと整備していくべきである。スキーの町の歴史的なシンボルとしてきちんと守り、活用していくことが必要なのではないかな。
- ・ 他のまちへ行くとまちのシンボルというものはどこにでもある。ちょうど札幌オリンピックも誘致さ

れそうで、話題になると思う。

(矢吹座長)

- ・ 北海道で最も飛びづらいジャンプ台として有名であった。葛西選手等も使用し、記録を作ったこともある。

(大萱委員)

- ・ 先日の会議のあと、基本理念は3日ほど考えた。つたない文章だが、良い言葉だといっていた嬉しかった。
- ・ 景観というものは文化であると思っているので、このように使われて嬉しい。
- ・ 文化というものは文明と対であると考えれば、文明はどんどん変わっていき国境も超えどこまでも伝わっていくものであるが、文化はその場所では育めないものである。その場所での積み重なりが文化として伝えられるものである。
- ・ 理念の言葉もとても良くできたフレーズであると思い、賛成である。
- ・ 資料も大量であるが、委員の指摘についてそれを反映してくれていて、とても貴重なものになったと思う。事務局が真剣に検討している姿が目に見えよう。座長が言ったように教科書になるようなものになった。これらを基に景観を作っていくようなものになるとよい。
- ・ これらの資料を町民の方々にもお配りしたい。同時にエリア毎などで集まってもらい、写真等を使って説明をした方がよい。委員を交え、どのようにこの資料がまとまってきたかというプロセスも共有すべきだ。
- ・ 新幹線等もあり、どんどん倶知安町の景観は変わっていくものと思う。倶知安の将来の景観というのがここに書かれているようなになればいいと思う。

(矢吹座長)

- ・ 文化というものはその場所では育たないものである。羊蹄山麓には6つのまちがあるが、それぞれに価値観を持っている。
- ・ 喜茂別の人からは羊蹄が最高だ、倶知安から見ると変だ、という。自分の町から見た羊蹄山が最も美しいというそれぞれの考え方がある。
- ・ まちの魅力を守り、その中で育った子供たちがさらに次の世代の景観を守っていく。当たり前だと思っていることが当たり前じゃなくなってしまうときのことも考えるべきだ。
- ・ 「人が」というのは、「まちの人たち」が繋いでいくなど具体的に書かないといけないかもしれない。
- ・ 行動指針というものがあるが、委員もそうであるが、いろんなところで関わる人達みんなが、一つ一つ行動に移していくことを、これからの1年間で取り組んでいくのも面白いと思う。
- ・ 昨年、農業委員会と事務局が話し合いをした時、広域で協力して取り組んでいるものがあると聞いた。田んぼの整備や草刈りなどを行っているそうである。農家の人たちが感じている課題があることをこの委員会で知れたことも良かった。今年は草刈り機を持って、5つの地区を巡り、みんなの話を聞きながら検討を深めるのも良いかもしれない。
- ・ 離農した人の家の周辺は荒れてしまうそうだ。周辺の人たちも人手不足だったり、勝手に手を入れても良いのか憚られる部分があると聞いた。
- ・ 坂井委員から出た「人が」という部分は、今後の展開にも関わってくるので、一度事務局で検討して欲しい。
- ・ 自然ガイド、山岳ガイドの人たちが、まちを訪れる人たちに色々と伝えてくれている。そのようなガ

イドの人たちの話を聞く機会も大切じゃないかという意見もある。これらの資料に具体的な人々の声が入るとさらに良いものとなるのではないか。

(2) 各部会等の検討状況について

資料2の内容について事務局から説明

(矢吹座長)

- ・ 2つの部会における検討状況について報告していただいた。さらに議論を深めていきたい。

4. その他

(1) 次年度の検討会議について

資料5の内容について事務局から説明

(矢吹座長)

- ・ 今年も盛りだくさんの予定である。みなさんには、できるだけ行動のしやすい時期に係っていただければと思っている。
- ・ 景観は内と外の考え方に似ている。内は自分たちの暮らしを守ること、外というのはそれを形作る自然の在り方のこと。生物多様性の流れにも似ているところがある。
- ・ 教材として使えるものを目指せればと思っている。

5. 閉会